

平成18年度「専修学校教育重点支援プラン」成果報告書

事業名	医療情報人材育成のための教育のシステムおよびカリキュラムの開発		
法人名	学校法人中央工学校		
学校名	アクト情報ビジネス専門学校		
代表者	理事長 大森 厚	担当者 連絡先	小林 博樹 TEL 03-3810-1414
<p>1. 事業の概要</p> <p>これまで、医療機関や医療機器などを扱うITベンダーにおけるマンパワー確保のため、医療・保健知識や医療システム構築に関わるスキルを有する「医療情報」人材の育成教育のシステムおよびカリキュラム開発に取り組んできた。その中で教育システム構築について、医療機関やITベンダーに対する調査を深め、さらに実証講座を通じてより情報実務的な能力を高めるためのカリキュラム構築を進めていくことにした。</p> <p>2. 事業の評価に関する項目</p> <p>①目的・重点事項の達成状況</p> <p>前年度実施した事業で、「医療情報」分野や関連スキルをいかに明確化し分野開拓していくかという課題がクローズアップされた。これと並行して、単に「医療」として捉えるのには限界があることから、「健康」情報、「ヘルス」情報、さらには「生活」情報という観点からの概念設定に取り組んだ。 本年度は、前年度の内容をより具体的に進化させる中で、特に次の点に重点を置くこととした。</p> <p>1. 「健康」情報、「ヘルス」情報に強く関わる分野の検討 2. 「健康」情報、「ヘルス」情報に関する意識アンケートを通じて、専門学校で求められる「健康」情報分野の学習 内容の方向性の検討 上記の重点内容に従って、検討を重ねた結果、実証講座で学生の意識状況を検証し実態掌握することができた。</p> <p>②事業により得られた成果</p> <p>本事業において検証されたプログラムは、高度専門士課程(4年制)である「高度情報処理科」のカリキュラムにおいて、3年次以降学習効果が高いと見込まれるものから順次実施する方向性で検討を進めている。また「情報処理科」(2年制)においても、選択科目として実施する方向で検討している。 高度情報処理科・情報処理科のカリキュラム作成に早急に組み込みたい。</p> <p>③今後の活用</p> <p>まず、「医療情報」に関わる概念理解、若者の学習志向傾向等については、専門学校を中心に広く提案し、各校における関連学科の構築の参考資料として役立たせたい。特に、国家資格の取得を主な狙いに限定せず、「ライフ」「健康」等の拡がりの中で、幅の広い人材育成を可能にするような展望を持つことが出来る。結果的に、人類の生存や安全生活に関わる情報の取捨選択、データの処理、解析などについての人材育成への取り組みを専門学校の立場から推進していくことが可能だと考えている。</p> <p>④次年度以降における課題・展開</p> <p>医療情報(健康・ヘルス)情報の分野は、情報系専門学校として目的に沿った学科の設置をするうえで、まず、人材育成の観点、次に育成カリキュラムの編成について、より検討を深め、幅広い視点から検証・実践していく必要がある。特に企業のニーズや社会の変化に対応できる人材を育てるためにどうするかといった観点をしっかり踏まえる必要がある。 今後は、今年度の成果と課題を踏まえ、より具体的なカリキュラムの検証に取り組み、教育プランとしてより形あるものへと進化させていく必要がある。さらに、専門学校に導入され始めている「高度専門士」分野において、「医療」「健康」「ヘルス」情報などの分野におけるエンジニア育成に取り組んでいきたい。従来、2年制で一定枠のスキル習得に終わった教育内容がより高度化され、専門学校の特色化を促して、社会の幅広いニーズに応えることが出来ると思う。</p>			

3. 事業の実施に関する項目

①ニーズ調査等

分科会において、カリキュラム策定を考えるに当たっては今後本事業において策定したカリキュラムで学ぶものと想定される高校生を中心とした調査をすべきとの方向性となった。

調査は、都立高校の協力を得て、12月に実施した。

その結果、近年話題になっているメタボリックシンドロームや成人病に対する予防、さらには簡単な健康法といった「身近な健康」に関わる事項について学びたい意識が強いことが判明したので、その結果をカリキュラム・実証講座に生かすべく、カリキュラム開発・実証講座担当委員に報告した。

②カリキュラムの開発

カリキュラム策定に関して進むべき方向性として、次の2つの観点から検討を行った。

①大量退職する「団塊の世代」を視野に入れた教育

②より高度な方向性への思考を持った若者

①に関しては、医療・健康・ヘルス分野に関しては、この段階では効果的なカリキュラムに関する議論が尽くされていなかったため、見送ることとし、情報分野の基礎理解としてオフィススイートに関する実習を中心とした。コンピュータの基本操作が十分にこなせるようになること第1目標とし、Word・Excelといったオフィススイートの操作を的確にこなせるようにしながら、その中でOSの概念を理解してもらえるようなカリキュラムを策定した。

②に関しては、実態調査分科会における調査結果を受け、コンピュータのハードウェア・ソフトウェア・ネットワークといったIT系基礎知識と、身近な健康・体による運動に関する基礎知識を教えるカリキュラムを策定した。

③実証講座

教育システム開発分科会で策定した方向性を探るべく、次の日程で実証講座を企画・実施した。

①の方向性に関する実証講座

11月6日(月)～10日(金) Word 11月13日(月)・15日(水)・17日(金)・20日(月)・22日(水) Excel

受講者数:20名(男性8名 女性12名) 年齢層:60代15名(男性3名 女性12名)、70代5名(男性5名)

受講者:公募(時間に余裕のある高齢者を対象とした)

②の方向性に関する実証講座

2月13日(火)～17日(土) IT関連分野 2月18日(日)～22日(木) 健康・運動分野

受講者数:14名(男性13名 女性1名) 年齢層:19歳～24歳

受講者:専門学校情報処理科2年生

④その他

幅広い分野の研究者を委員としてお願いした。特に、建築の専門家も加わり、医療関係者、教育関係者、区役所関係セクション、ベンチャー関係者など、多才な顔ぶれで事業に取り組むことが出来た。今年の実証では、このような委員の構成の特色から「医療情報」をどこまで普遍化し、我々が目指す「ライフ(生活)情報」に発展・展開できるのか、を最大の狙いとした。人材育成の観点から、協力を要請した各校の在籍生とにきめの細かいアンケート調査を行いデータの集積を行った。